R20828_本部供養会ご指導（要旨）

今回もこのような形でしか供養会ができませんが、お暑い中お集りを頂きまして、誠にありがとうございます。

なかなかコロナも収束の兆しが見えませんが、他の国に比べれば亡くなっている方が少ないということは本当に感謝だと思っています。

また今日は28日という日に安部総理が会見をされるということで、大体いつも不思議と大事なときって28日なのです。以前から、あまり体調が良くないということは聞いておりました。私もご縁のある方なので、今祈願させて頂いておりますけども、やはりね、トップの人が病気になるってことも国の大事件ですので、それをしっかりと受け止めなければと思っています。

今日、お話するのは、日蓮大聖人さまが日蓮宗を開宗された大きな理由についてです。日蓮さまが生きていらっしゃった当時、日本の国が大変な状況だったからであります。それはもう学ばれていると思いますけれども、元々日蓮さまは比叡山で勉強され、法華経は素晴らしいということ学ばれましたけれども、色々悩まれたようであります。

千葉に戻られて、あまりにも国が酷い状況なので、そしてこれではいけないと。やはりお題目にすぎなければいけないんだ、お題目をすべての日本人が唱えなければ大変なことになると、その危機感で日蓮宗を開宗された。お題目にすぎなきやいけないんだということを強くおっしゃったわけです。日蓮さまが憂えていた状況というのは今の日本とすべて合致しております。地震、洪水ですね。あと疫病。更には、当時の国のトップの方達が病気をしていた。ですから、今の状況とすべてが合致しているのです。これは本当に因縁です。

妙智會は日蓮さまを御守護尊神として頂いております。10月12日に開教70周年を迎えますけれども、私は前から申し上げた通り、物故者の方達に対する感謝をもってご供養させて頂くことが大きな柱です。さらには、日蓮さまに感謝を捧げる。日蓮さまが一番憂えていた日本が、今の日本と同じだということ。

これもしっかり妙智會会員は心しなければならぬというふうに思います。日蓮さまはその状況をどう説かれたかという、末法だとおっしゃいました。その時代と今の時代が同じで、御守護尊神の日蓮さまに感謝を捧げるべき開教がまもなく来ること、これも私は意味深きものだなと思います。ただ、このレベルで話をしますと、危機感を感じられない場合があります。しかし、これはなにも国だけでなく家庭も末法なのです。今コロナの中で、家庭内感染。これはもう末法ですよ、家庭の中の末法。家族が一度に食事できない状況。会社、社会も同じです。女の方達も仕事に出てらっしゃるから分かると思いますが、昔のような親しい間柄での会社というものが、組織というものがあるかどうか。このコロナで、バンと我々の目の前に問題提起されたのであって、前から続いていたことは間違いのないわけですね。なにも今年急激に起きたことではないということ、今日分かって頂きたい。そして、なんでもかんでも我々は、コロナのせいにするんですよ。そりゃ楽です。でも前からのものが、コロナのこの時に大きく見えるようになったということなのです。これは本当に我々がしっかりとみつめないといけないこと。随分長い間、コロナが起きるようなことをやってきたんです。個人でも、家庭でも、社会でも、国でも。そして起きたのですから。何十年もかけて因縁を増やして今起きてるのに、明日がよくなるはずがないです。当たり前です。そこを我々は気づかなきゃいけない。でもね。大丈夫です。会主さまが教えてくれているから。末法というのを収める時に昔は生け贄みたいなことをやっていた。でもこんなのでないけません。こんなので神佛にお鎮まり頂くなんてことするからまた因縁増やすんであって、妙智會は違う。日蓮さまがおっしゃった。日蓮さまはお題目。妙智會は法名によって、ちゃんと順序を付くようにしようというのが私の強い思いであります。